

Citation: Lancaster T, Stead LF. Silver acetate for smoking cessation. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 1997, Issue 3. Art. No.: CD000191. DOI: 10.1002/14651858.CD000191.

CRG名: Tobacco Addiction

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 7 January 2009

Clib issue No.; N/U: 2009 issue 2, Updated

背景: 酢酸銀はたばこと併用すると不快な味となり、それ故、嫌悪刺激を生み出す。不快な刺激と喫煙への衝動を組み合わせることにより、衝動を抑える目的で酢酸銀は様々な剤形で市販されている。

目的: 本レビューの目的は禁煙を推進する上で酢酸銀製剤(ガム、トローチ、スプレー)の有効性を評価することである。

検索戦略: Cochrane Tobacco Addiction group trials registerを検索した。最終検索は2009年1月。

選択基準: 禁煙に対する酢酸銀のランダム化比較試験で、治療開始後少なくとも6か月間の喫煙状況のレポートがあるものを選んだ。

データ収集と分析: 対象者の種別、投与量、酢酸銀の剤形、アウトカム指標、ランダム化の方法、追跡の完全性について、2人が独立にデータを抽出した。

主要なアウトカム指標は、ベースラインで喫煙者だった患者を最低6か月追跡した後、生化学的に確認された禁煙である。追跡中行方不明になった対象者は喫煙継続とみなした。必要に応じて、固定効果モデルを使ってメタアナリシスを行った。

主な結果: 酢酸銀とプラセボにランダムに割り付けられた患者における長期観察研究が2件あった。このうちの1件では、第3の選択肢として2mgニコチンガムにランダム割り付けがなされていた。酢酸銀による禁煙効果の統合オッズ比はプラセボに対して1.05(95%CI:0.63~1.73)であった。

レビューアの結論: 現存する試験では、禁煙を促進するための酢酸銀の特異的な効果を示すエビデンスはほとんどない。オッズ比の信頼区間は非常に広い。しかしながら、有効な場合の信頼区間の上限は約4%の禁煙率の絶対増加に等しい。それ故、この酢酸銀の効果はあったとしてもニコチン代替療法より小さいと思われる。酢酸銀の効果がないことは、不快な刺激を与えるというその治療の原理のためにコンプライアンスが低下することを反映しているかもしれない。

(翻訳 藤堂麻紀・監訳 森 亨; JCOHR)

翻訳公開日: 10年7月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは毎月、改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。